

◎関節リウマチ・生物学的製剤

座長 大澤 傑

I-P2-36 関節リウマチに対する生物学的製剤の治療効果とSF-8(Short form-8)を用いたQOL評価

¹岐阜大学大学院医学系研究科整形外科, ²長良整形外科クリニック整形外科, ³関ヶ原市民病院整形外科,
⁴下呂温泉病院整形外科

糸数 万正¹, 青木 隆明¹, 木田 公洋², 楊 中仁³, 児玉 直樹⁴

「目的および方法」:近年注目されている生物学的製剤・TNF- α 阻害薬は日本でも高い評価をうけている。薬剤の効果については種々の評価基準があるが、多くは医療者側の評価である。今回患者の主観的な評価を表すものとして注目されている患者立脚型評価SF-36(Short Form-36)(健康状態を8項目のサブスケールでスコア化し評価するもので、1.身体機能 2.日常役割機能(身体)3.体の痛み 4.全体的健康感 5.活力 6.社会生活機能 7.日常役割機能(精神)8.心の健康の8つの下位尺度で構成されている)の8領域だけを測る短縮版尺度であるSF-8を用いた。スコアリング方法は、SF-36と同様に、NBS(Norm-based scoring:国民標準値(50)に基づいたスコアリング)によって得点化され、また、8つの下位尺度をもとに、2つのサマリースコア、「身体的健康度」と「精神的健康度」を算出する。生物学的製剤の臨床効果とQOLの改善について薬剤投与前後について検討した。【結果】投与前と最終投与時の炎症反応値は有意に改善していた。また、本薬剤は全般的にはQOL(SF-8)の改善に貢献していたが、関節障害により、外科的加療の必要な例では臨床データは改善しても、QOLの向上は少ない。しかし、外科的加療後にはQOLはより向上した。この患者立脚型QOL評価法は主観的満足度を数値にできる有用な解析法である。

I-P2-37 インフリキシマブの関節リウマチ患者のQOLに対する効果

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻理学・作業療法学講座
 折口 智樹, 松坂 誠應

【目的】わが国でも生物学的製剤が関節リウマチ(RA)の治療に使用可能となった。その治療効果は素晴らしく、RAの疾患活動性を抑え、症状ならびに検査成績を著明に改善することが明らかになっている。さらに、関節破壊を阻止し、改善する作用があるという報告もある。しかし、これらの生物学的製剤がRA患者のQOLに対する効果に対する評価はほとんどなされていない。そこで、私達は生物学的製剤の1つであるキメラ型抗TNF α 抗体、インフリキシマブのRA患者のQOLに対する効果について検討したので報告する。【対象】インフリキシマブが投与されたRA患者116名(男性18例,女性98例)。平均年齢58.6歳,平均罹病期間9.2年。【方法】RA患者116名についてインフリキシマブ投与前後でmHAQを、また、そのうち12名については患者アンケートによるAIMS2日本語版、SF-36の評価を実施した。【結果】インフリキシマブを投与することによってmHAQは平均10.2→6.3と改善が認められた。AIMS2では、症状(痛み)、身体機能障害、仕事の面のスコア平均もそれぞれ、4.8→2.5, 4.2→2.9, 5.0→2.8と改善した。SF-36では、身体機能項目だけでなく、日常役割に対する精神的機能のスコア平均も39.6→59.7と改善が認められた。【考察】インフリキシマブは痛みの軽減、身体機能の改善によって、仕事に対する身体的障害だけでなく、精神的障害も改善することがわかった。

I-P2-38 生物学的製剤による関節リウマチ上肢能力の変化—日本語版DASHによる評価—

¹新潟県立リウマチセンターリウマチ科, ²新潟県立リウマチセンターリハビリテーション科
 石川 肇¹, 村澤 章¹, 中園 清¹, 青木 可奈²

【目的】近年、生物学的製剤は関節リウマチ(RA)を寛解に導き、関節破壊を阻止する強力な薬剤として注目されている。われわれはRAによる上肢能力障害が、この薬剤によってどの程度改善するかを明らかにするため、日本語版DASH(Disabilities of the Arm, Shoulder, and Hand)を用いて立脚型アウトカム評価を行った。【対象と方法】対象は、従来の抗リウマチ薬で効果が得られない22症例(男5例,女17例)で、投与開始時の年齢平均48歳,罹病期間平均6年,投与後経過観察期間平均1年(2ヵ月から1年9ヵ月)である。12例にInfliximab(INF),10例にEtanercept(ETN)が使用されたが、途中で有害事象ないし無効のため3例がINFからETNに変更,2例がETN中止となった。各症例について投与直前と投与後調査時でのDAS(Disease Activity Score)28-CRP(4),mHAQ(modified Health Assessment Questionnaire),DASHスコアを調べた。【結果】投与直前と投与後調査時でDAS28-CRP(4)は平均5.5から平均3.8に改善し,5例が寛解となった。mHAQは0.9から0.7に,DASHスコアは56から43に有意に改善した。DAS28-CRP(4)とDASHスコアの間には、正の相関関係をみとめた。DASH項目の中で、疼痛,こわばり,自信喪失,リーチ機能関連動作において改善が著しかった。【結論】生物学的製剤によって疾患活動性がコントロールされ上肢能力も改善するが、ある程度能力障害は残存することがわかった。